

## 首長が葬られた出雲地方最古級の横穴墓

### 宮内遺跡Ⅱ区 1号横穴墓（安来市 1992年調査） 宮本正保

横穴墓は古墳時代のお墓の一種で、島根県では6世紀後半以降に見られます。古墳は土を盛って墳丘<sup>ふんきゅう</sup>を築き、その中に遺体を埋葬する部屋（玄室<sup>げんしつ</sup>）を造りますが、横穴墓は丘陵斜面に穴を掘り、その中に玄室<sup>げんしつ</sup>を設けます。一般的に、地域の首長クラスが葬られるのが古墳で、横穴墓はそれに次ぐ有力な豪族や農民などの墓と考えられています。

1991年冬、安来道路の建設工事中に1基の横穴墓が発見されました。場所は安来市北東部、伯太川下流の東岸にある丘陵地で、既に現地調査を終えていた宮内遺跡Ⅱ区です。急遽発掘調査を行いました。重機が玄室の壁に開けた大きな穴から冬の季節風が吹き込み、寒さに震えながらの調査でした。

島根県では安来道路など高速道路の建設が始まったばかりで、県が行う発掘調査は教育委員会文化課が担当していました。当時、文化課は松江市殿町にある旧日本銀行松江支店（現在「カラコロ工房」となっている建物）にありました。現在の場所に埋蔵文化財調査センターが設置されるのは翌1992年4月のことです。

この横穴墓は、玄室への通路である羨道<sup>せんどう</sup>が狭く、玄室は小規模で天井が丸くて低いなど古い特徴を持っており、出土した土器の型式も、出雲地方の横穴墓では最古級であることを示

していました。また、玄室の中には石棺が置かれていましたが、その内部や周囲からは土器だけではなく多くの金属製品を発見しました。轡<sup>くつわ</sup>、鐙<sup>あぶみ</sup>、鞍金具<sup>くらかなぐ</sup>など多様な馬具のほか、鐺<sup>つば</sup>に銀の象眼が施された鉄製の大刀、刀子など、有力な古墳の出土品に勝るとも劣らない質・量の金属製品が出土したのです。



横穴墓の玄室に置かれた石棺  
(天井の石を取り外した後の様子)

多くの金属製品が出土したこの横穴墓をどう評価すべきか悩みましたが、最終的に安来市の南西部、伯太川下流地域の首長クラスの人物の墓ではないかと考えました。宮内遺跡Ⅱ区1号横穴墓がつくられた古墳時代後期、安来市西部を流れる飯梨川より西側の地域では、塩津神社古墳、飯梨岩舟古墳など石棺式石室と呼ばれる横穴式石室を持つ古墳が築かれます。一方、東側の地域にはこの時期の有力な古墳は認められません。豊富な金属製品が副葬され、通常であれば古墳に葬られる首長層が、この地域では横穴墓に埋葬された可能性があります。

その後の発掘調査で、宮内遺跡周辺の丘陵では合計41基の横穴墓を調査しました。これらには、宮内Ⅱ区1号横穴墓以降の歴代の首長たちが埋葬されたのかもしれませんが。

(島根県埋蔵文化財調査センター企画幹)



石棺の前から見つかった大量の土器